

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100427
法人名	株式会社 ことぶき
事業所名	グループホーム ゆうかの里
所在地	松山市北条辻922番地3
自己評価作成日	平成24年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>施設内での勉強会や外出支援に力を入れており、理念である【愛】を基に、人間愛を持って利用者一人ひとりがその人らしい生活が出来るよう取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●法人は、今年、設立5周年を迎えたこともあり、理念の「愛」をテーマに、いろいろな行事を企画して取り組まれ、地域との交流の輪を広げたり、利用者が普段は行けないような場所に出かける等、活動を広げられた。記念式典時には、地域の方やご家族にも案内して、交流を広げられた。又、地域の保育園の園児が歌を歌ってくれたり、ボランティアの方が、三線、フラダンス、伊予万歳を披露したりしてくださった。</p> <p>●お寺参りのお好きな利用者3名が相談して、今治の遍照院にお参りに行くことを決め、職員が同行して支援されたこともある。入居間もない頃は、利用者の気持ちも不安定であるため、ご家族には、できるだけ来訪いただけるようお願いしておられ、又、馴染みの生活用品や大切なものを少しずつ運んでもらえるよう、声をかけておられる。以前の仕事をらもあって、乗り物の好きな利用者がおられ、職員は、JRの列車が近くを通過する時刻を調べておき、時々、電車を見に出かけられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ゆうかの里

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 中川 寿文

評価完了日 24年 9月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「愛を形にすることを目標」を掲げ、管理者会議、職員会議等で愛・笑顔・信頼を合言葉に理念の共有して、再確認をしている。	
			(外部評価) 法人は、今年、設立5周年を迎えたこともあり、理念の「愛」をテーマに、いろいろな行事を企画して取り組まれ、地域との交流の輪を広げられたり、利用者が普段は行けないような場所に出かける等、活動を広げられた。又、職員のユニフォームを揃えられた。胸に「愛」のロゴを入れたポロシャツは、「自然」をイメージしたブルーの色で、利用者からも、「気持ちが落ち着く色」と好評のようである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩先として近所の新開公園を利用しており、公園内でも近隣の子供たちや親との会話も笑顔でされている。また地域の幼稚園との交流、小学校・中学校の訪問受け入れ、地域の行事にも積極的に参加している。	
			(外部評価) 日頃から利用者は、事業所周辺や公園まで散歩することが日課になっている。散歩中、利用者は、お花がきれいに咲く、お庭に入ってしまうこともあるが、お宅の方は、「お花が好きなんですね。いつでも入って見ていいですよ」と言ってくださるようだ。職員と利用者で事業所周辺の掃除を行っていると、近所の方が挨拶してくれたり、時には、利用者の体調を気にしてくださったりもする。中学校の生徒が訪問してくれた際には、利用者と公園まで散歩してブランコに乗ったり、利用者と一緒にクリスマス会の準備を行う等してふれ合われた。後日、生徒からハガキが届き、「長生きして下さい」等のメッセージもあり、利用者は感激されたようだ。法人5周年の記念式典時には、地域の方やご家族にも案内して、交流を広げられた。又、地域の保育園の園児が歌を歌ってくれたり、ボランティアの方が、三線、フラダンス、伊予万歳を披露したりしてくださった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の保育園・幼稚園に声掛けして、ホームの利用者の生活状況を見ていただいたり、お年寄りと会話していただき労わる気持ちを持ってもらう。また推進会議や地域行事への職員や利用者の積極参加をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は2カ月ごと開催して、地域区長や民生委員の毎回参加、地域包括センター職員や市役所介護保険課職員の参加していただき利用者の状況、取り組んだ事、利用者の外出など報告してアドバイスを聞きサービスに活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、区長、家族代表、民生委員等に参加いただき、開催されている。事業所から、利用者の状況や地域交流、行事等について報告して、意見交換されている。民生委員の方から、「ホームの生活も充実し、以前より雰囲気明るくなった」と、感想をいただいたり、又、ご家族からは、「救急搬送時の迅速な対応に感謝している」とお礼の言葉をいただいた。</p>	<p>今後は、事業所が、「気になっていること」等も議題に挙げて、メンバーと一緒に考えたり、広く意見を聞けるよう、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。これまで地域交流で知り合った方達にも、会議に参加していただけるよう働きかけて、会議を通して関係をより深められてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 地域の社会福祉協議会、包括支援センター、市役所介護保険課と密に連絡を取って協力していただいている。又、推進会議にも常時参加してアドバイスをいただいている。</p> <p>(外部評価) 市や地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に参加してくださり、熱中症や食中毒について気を付けることをアドバイスしてくださったり、他事業所の避難訓練の様子やホーム便りの取組み等についても情報提供してくださっている。市の担当者からのアドバイスがきっかけで、管理者は、他事業所の運営推進会議に参加されるようになった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は絶対しないという方針で職員間で確認しあっている。又、職員会議などで、身体拘束について理解しているよう勉強会を行っている。玄関の施錠や各個人の部屋の施錠についても夜間の防犯対策として実施して昼間は解放している。</p> <p>(外部評価) 1、2階のユニットの玄関は施錠せず、自由に出入りができるようになっている。「帰りたい」気持ちや様子がみられる利用者には、散歩にお誘いしたり、興味のあることを行えるよう、支援されている。近所の方が、「利用者がひとり外に出ている」と、知らせてくださったこともあった。事業所では、「事故報告対策記録書」の様式を作り、職員が、「利用者はなぜそうしたのか」「利用者の気持ち」「今後どうするのがよいのか」等を記入して、利用者がひとりで出かけたことの原因を探ることに努めておられる。又、記録書は、すべての職員に回覧されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止について各個人でも勉強して、職員間でもお互い注意しあっている。又、虐待のグレーゾーンの部分も勉強会等で理解を深めていけるようにしていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現に8月に成年後見人手続きの為、家庭裁判所で聞き取りに調査に出て行き、近々成立する予定です。社会福祉協議会職員による勉強会を開催して職員のレベルアップも図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時点で、利用者や家族と、入居について話し合い契約書等で詳細に説明させて頂き、理解や納得をして頂き不安や疑問点を無くしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族代表者からの意見やアドバイスを受け入れ検討したり協議した事を利用者や家族に説明している。今後、家族一人一人とゆっくり話し合える時間を取っていきたい。 (外部評価) 利用者が話したいことがある時には、管理者が2階の「相談室」で聞き取っておられる。ご家族には、毎月、利用者の身体状況や暮らしの様子をお手紙で知らせておられる。これまでは、ご家族からの伝言等を、口頭で申し送っておられたが、すべての職員に伝わり難かったこともあり、事業所では、新たに、「家族様との面会の記録」を作り、「すべての職員に回覧」して、内容を確認する仕組みを作られた。	事業所では今後、「家族会」を3ヶ月毎に開催することを予定されている。管理者は、「ご家族の声がたくさん聞ける会にしていきたい」と話しておられた。又、そのような取り組みが、運営推進会議への参加にもつながっていくことを期待されている。さらに、ご家族が介護等について勉強するような機会を作ったり、又、一緒にケアにかかわるような機会も作ってみてはどうだろうか。ご家族とケアの方針を共有して、利用者を支えていけるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会議やカンファレンスで、職員の意見を聞く機会を設け充分検討した上で反映させている。又、毎月1階2階で別々にカンファレンスを開き利用者個々のケアについて職員が意見を出し合い支援に反映させている。	
			(外部評価) 外出計画は、記入用紙を回覧して職員が希望を出す仕組みを作っておられ、利用者の希望を踏まえて計画されている。管理者は、2階の相談室を利用して職員からのケアへの質問を聞いたり、又、相談に乗っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 随時の職員との面談を始め、代表者から職員、管理者へ、また職員や管理者から代表者へと話し合っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各研修会には積極的に参加していただき、その内容を職員会議やカンファレンス等で発表やその受講者が、他の職員に対して受講内容の勉強会や研修を行って全職員のレベルアップを図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) (株)ことぶきの施設でゆずはなの里との交流をしたり、他事業所のイベントに参加したりして、サービスの質の向上を目指している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談が有れば、利用予定者や家族の要望や希望を良く聞いて、安心して入居出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期入所者にはベテラン職員または、管理者やケアマネが対応に当たり、利用者や家族の不安を聞きながら安心して入所していただくように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居当時は利用者本人も生活に慣れていない為、不安感が多々あり、その不安をひとつずつ除去する事に努めている。又、利用者のニーズ・性格・他の利用者との関係を調整した対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者のすべての方が、安心して不安の無い日々が過ごせるよう、全員が仲良く暮らせるように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族も次の介護職員ととらえ、共通の介護が出来るよう、又、家族の要望も取り入れた絆を大切に支援している。家族の日常面会も声掛けしている。あわせて毎月一回その利用者担当職員から家族宛に近況などのメッセージを発信している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の生活や状態を良くお聞きして、急に生活環境が変わらないよう今まで使用しておられた布団やコップをそのまま使って頂き、知人や友人等の来訪もお願いしている。 (外部評価) お寺参りのお好きな利用者3名が相談して、今治の遍照院にお参りに行くことを決め、職員が同行して支援されたこともある。ご家族に会いたい利用者には、職員が付き添ってご自宅に戻ってみることを支援されている。ご本人は、ご家族の顔を見ると安心して事業所に戻られるようだ。入居間もない頃は、利用者の気持ちも不安定であるため、ご家族にはできるだけ来訪いただけるようお願いしておられ、又、馴染みの生活用品や大切なものを少しずつ運んでもらえるよう、声をかけておられる。以前の仕事からもあって、乗り物の好きな利用者がおられ、職員は、JRの列車が近くを通過する時刻を調べておき、時々、電車を見に出かけておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が仲良く生活出来るに職員が見守っている。又、気が合った同士で散歩に行ったり買い物に行ったりして一人ひとりが孤立しないように努めて古いる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事情が有って退所されたり、他の事業所に行かれても、家族から様子や情報を知らせて頂き、家族から相談が有った時は丁寧に対応しているし、縁が切れないように努力している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりのかかわり方を工夫して、本人の思いや願い、要望を探り出して対応に活かしていく。又、カンファレンスで全員が意見を出し合い、職員全員が共通のケア目標を持って、その利用者本位が満足出来るよう努力していきたい。 (外部評価) 法人代表者は、職員に、「利用者の思いを共有し、利用者を中心とした支援をしてほしい」と、よく話しておられる。日頃の利用者の会話から、職員の家族と利用者が同級生であることが分かり、60数年ぶりに再会できたということもあった。法人5周年記念式典時には、利用者代表が、みなの前でお話する機会を設けられ、利用者は、職員の日頃のケアについて感謝の言葉を述べられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の入居前の生活状態等を十分に考慮して介護に当たる。又、生活歴によって家族にも協力して頂き、以前の生活状況の情報を得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を把握して、その心身状態によって1日の過ごし方や1日の生活時間帯の行動把握に努める。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 個々の利用者担当職員がまずどうしてあげたいか、自分なりのプランを立て、それをカンファレンスで話し合い、十分に検討した後、担当職員とリーダーと管理者とケアマネとで再度話し合い現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 今年度より、職員が記入した日々の介護記録をみて、計画作成担当者が、毎日モニタリングを行っておられ、3ヶ月毎に介護計画を見直しておられる。「日記をつける」という支援計画には、職員は、その日の出来事を一緒に振り返りながら、ご本人が日記を付けられるよう支援されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個々の介護記録に基づき、実践や気づきや工夫を、職員間の共通の情報として、共有しながらその時々介護計画の見直しをしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 個々の利用者の身体状況や生活状況によって、既存のサービスに捉われないようにして、柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者が地域の行事やイベントに参加して、地域資源の状態を把握して豊かな生活を楽しめるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけDrの毎月 定時往診をして頂き、診察や指示を受けている。又、緊急時には随時往診して頂いたり、利用者が病院受診などをしてDrの指示を受けている。その中に家族の希望や要望を伝え出来る限り希望等にそった支援をしている。	
			(外部評価) 協力医は、月2回往診して下さり、緊急時には24時間対応してくれるようになってきている。入居前のかかりつけ医に継続して受診する方もおられる。訪問看護ステーションと連携をされており、必要時には、看護師が利用者の状態を直接、医師に伝えてくれるため、職員の安心感にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎月訪問看護を依頼して利用者を診て頂いている。又、緊急を要する時には随時訪問して対応や指示を受けている。場合によってはかかりつけDrへの連絡や相談をしてくれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院前にはかかりつけDrの診察や指示を受け、紹介状を持って入院して、入院先のDrとかかりつけDrとの連携によって早期退院出来るようにしている。又、入院先Drと家族との会話や説明に職員も同行して情報交換や簡潔づくりをしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のケアについてカンファレンス等で勉強会をしている。看取りについても今後取り入れていかねばならないので、家族、職員、看護師、Drとの連携も含んで話し合いを具体化していきたい。又、職員の研修や勉強によってレベルアップを図っていきたい。	利用者が最期までご自分らしく暮らし続けられるように、事業所の支援のあり方や体制等の指針を示して、利用者やご家族にも説明をされてほしい。又、重度化や看取りについての勉強会を行う等、いざという時の職員の心配や不安を軽減できるように、取り組まれてほしい。
			(外部評価) 事業所での看取りを希望されるご家族の中には、事業所に来られた時に、「いざという時に、して欲しい事」を、管理者に伝えている方もある。事業所では、終末期のあり方について、現在、利用者やご家族の希望を聞き取っているところである。看取りの方針についても、内容を見直している途中である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員の外部研修の積極的参加、またその参加者が主催で社内の職員会議やカンファレンス等で勉強会を行っている。又、訪問看護師の指導やかかりつけDrの指導等を受けているが、これからもっと積極的に取組み、職員全員が、実践力を身につけられるようにしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練は年間2回以上実施している。尚、1回は消防署職員指導の訓練を行っている。災害、防火の緊急連絡網を作成、いつでも対応出切るに内部での訓練もしている。	事業所では、新たに「地震、風水害、津波による災害時対応マニュアル」を作成された。これを機に、災害のいろいろな場面を想定した訓練を繰り返して、今後さらに、利用者・職員の安心安全に向けて取り組まれてほしい。
			(外部評価) 7月には、日中の火災を想定した避難訓練を実施されて、区長、民生委員、地域の方にも参加いただいた。訓練時には、実際に職員連絡網も回したり、ご家族との連絡を取ったり、消防署への通報訓練等も行われた。消防からは、「いつ、どんな人員体制でも、対応出来るように訓練を重ねてほしい」「2階の車いすの方を担いで降りる訓練も、何度もした方が良い」と、アドバイスをいただいた。地域の方からは、「職員や利用者の訓練の様子を見ることができ、参加して良かった」と感想をいただいた。今年2月には、地区の防災訓練に、利用者と一緒に参加された。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人個人の性格や、今までの生活を把握して、人格を尊重しながら本人の納得される対応や声掛けをしている。又、会話やトイレ誘導の声掛けも他の利用者に分らないよう、対応している。	
			(外部評価) 調査訪問時、食後の下膳の仕方に困っている利用者の方に、職員は、一つひとつ案内しながらご本人が下膳できるよう支援され、その後、「ありがとうございました」とお礼を言っておられた。入浴やトイレの介助時には、「ズボンを下ろすね」等、職員は、次の動作をご本人に伝えてから介助するよう、気を付けておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の希望や要望があれば、出来る限り希望や要望がかなえられるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の服装については、本人の希望を聞き対応している。又、個々ペースや気持ちを大切にして、その人の希望に沿った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の服の好みを把握して、着替えをする時には、いろいろおしゃれについて話したり、ある時には服の補修をしたりしてコミュニケーションを取っている。又、2か月に一度美容店来ホームで散髪をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月1回から2回程度、普段のメニューとは違った別メニューを選んで当日のメニューとして喜んでおられます。食事準備、食器の片付け等を手伝って頂き、併せて職員は食中毒を出さないよう、気をつけて調理している。 (外部評価) 食事時には、テレビを消してクラシック音楽を流しておられた。食事介助の必要な利用者が多いことから、職員は介助に徹しておられた。ご飯は、事業所で炊いておられるが、おかずは外注しており、できたものが冷凍やバック詰で届き、温めて提供されており、必要に応じて事業所でトロミを付けたり、ミキサーにかける等されている。お祝い事や行事食等、月2回は、事業所で食事を手作りしておられ、お誕生日には、利用者の希望でちらし寿司や、焼きそば、中華料理やデコレーションケーキを作ってお祝いされている。調査訪問時のおやつは蒸しケーキは、利用者も材料を混ぜたり、餡を入れたりしながら、職員と一緒に手作りを楽しんでいた。	利用者の食事介助や受診の同行等もあって、現在は、事業所で食事を作ることは難しい面もあるようだが、管理者は今後、「もう少し手作りの日を増やしていきたい」と話しておられた。又、朝食に焼きたてのパンを食べられるように、パン焼き器の購入を予定されている。又、時には、お餅を搗き、利用者と一緒に作業をしながら、出来立てのお餅を楽しみたいと話しておられた。利用者が食事をおいしく食べられるような支援については、運営推進会議やご家族等にも意見やアイデアをいただきながら、取り組みをすすめてみてはどうだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材は外注しており、栄養バランスも充分考慮している。水分量も1日2000ccを目標にして個々にそのままのお茶やジュース類、又トロミをつけたりして飲んでもらっている。介助の必要な利用者には職員が全介助にて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各自食器を下げてくれるので、その時、声掛けをして自分で出来る人は自分でして頂き、介助の必要な人には職員が介助している。又、口腔ケアは個人別介護記録にも記入して残している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>昼間は、その人の排泄パターンにより定期的にトイレ誘導して、自力で排尿・排便をしてもらっています。自力で出来ない利用者はおむつをしているが、排泄の声掛けは定期的に行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>トイレに間に合わない時がある利用者が、「部屋にトイレがあれば・・・」と言われたことから、ポータブルトイレを居室に設置することを試してみられた。利用者は、ご自分でトイレを使い分け、失禁することが無くなったようだ。おむつを使用して入居された方も、定期的にトイレに誘導することで、布パンツで過ごせるよう、改善された事例もある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に竹踏みとかの運動をしたり、散歩をしたりしている。又、場合によってはヨーグルト等の乳製品を食事に付けたりしている。入浴時に腹部マッサージなども行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>原則1日ごとの定期入浴をしているが、その時の状況によって続けて入浴されたりしている。夏季は特に本人からの入浴希望があれば随時入浴して頂くように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>午前中に入浴できるよう支援されている。入浴を嫌がる方には無理強いせず、時間を置いて何回か声かけをすると、入浴につながる場合もあるようだ。利用者をご自分で血圧を確認して、入浴するか判断する方もいる。ひとりで入浴する方には、職員が見守りながら、できることはなるべくご自分でやるよう支援されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>昼夜逆転にならないよう、日中はホールで過ごしたり、1階への用事に職員と移動したり、散歩に誘ったりして過ごされています。夜間の見回りは就寝の妨げにならないよう静かに周り、時間も2、3時間ごとに行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日々の投薬は職員が管理している。往診時に薬が変更になった場合は、随時、処方箋で確認している。又、実際に飲んだか飲まなかったかを確認して誤薬がないよに確認を完璧にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の趣味に応じたものがあれば職員と一緒にして頂き、その中から以前の生活や昔の事を思い出してもらっている。その中から職員が以前の生活状況や嗜好品等を聞き出し、支援に活かしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候、時間帯で散歩をしたり、買い物に行ったりしている。又、6月は奥道後さつき展、7月は北条鹿島一周遊覧船等を実施、8月、9月で奥道後昼食バイキングをします。図書館に行かれ本を借りて読まれる利用者もおられる。 (外部評価) 遊覧船で鹿島一周された際には、島の周りをゆっくり遊覧して、利用者は、はじめての体験に、たいへん感激されたようだ。島に降りてからは、散策したり、鹿と記念写真を撮ったりして楽しまれた。戦国史のお好きな利用者は、職員と、定期的に図書館に出かけ、本を借りて来られ、居室で読書を楽しまれている。「風早レトロ祭り」に数名で行かれた際には、昭和の懐かしいポスターの展示やレトロカーを見たり、出店の焼き芋を食べたりされた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 原則としてお金は家族に管理してもらっている。本人の希望があれば職員と一緒に買い物に行き好きな物を買われたりして楽しんでいます。金銭管理は領収書によって翌月、家族に請求している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人がダイヤル出来ない時には、職員が変わってダイヤルして、家族や相手が出たら本人に代わって話しをされる。手紙も書ける利用者には書いてもらって出しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 日中は、ラジオやCD等の音楽を主として、時代劇ほか見たい番組があればTVも見られる。季節ごとに掲示物や飾り絵を変えている。又、行事によって花や七夕かざりを職員と一緒に作成したりして、時間の流れや季節感が分るように工夫している。</p> <p>(外部評価) クリニックを改装した事業所で、1階ユニットの居間はガラス張になっており、中から前の道を通る人の様子がよく見える。近所の方や幼稚園児の姿が見えた時には、挨拶したり、お話しすることもあるようだ。2階ユニットへは、外階段から上がるようになっている。家事の得意な利用者が、玄関の掃き掃除をしてくださったり、洗濯ものを取りこんだりしてくれている。利用者は日中、居間でオセロを楽しんだり、テレビや新聞を見たりして過ごされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールでは気の合った同士が会話されたり、ゲームをされたりして過ごされている。又、一緒に買い物に行かれたりされている。利用者によっては、近くの図書館で借りてきた小説を読まれたりされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 過去に大切にされていた物とか、本人が気に入っている物とかを自室内に置かれたり、家族から本人の使いなれた物とかも持ってきて頂き、自室に置いて本人が居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) ご自分の居室を間違ふことがある方には、入口に大きく名前を書いた表札を付けておられる。娘さんから毎月届く絵手紙を貼っておられたり、ご家族からプレゼントされたぬいぐるみや写真を飾っている方もある。ラジオで毎日ニュースを聞いたり、懐メロを聞く方もいる。1階の居室は、掃き出し窓で、自由に外に出られて、お隣の居室の方と窓越しにお話されるようなこともある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 本人が出来る事を活かして、自立した生活が送れるよう工夫している。毎日の手伝いの中から、もっと出来る事を増やして、さらに自立を目指した生活が送れるよう工夫している。</p>	